

事業所名	グループホーム よこはま
ユニット名	こもれび

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し日々その理念をベースにケア出来る様に取り組んでいる。	理念が長いいためこれを短い標語にして、ロッカールームに掲示して職員への周知徹底を図っています。ユニットごとに毎年のテーマを決めて介護支援にあたっています。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や町内会の一員としてイベントに参加出来る様にしている。今年は地域と消防協力隊の覚書調印もでき、三ツ沢小学校運動会にも参加した。	町内会の班長を引き受けています。町内会イベントに積極的に参加しています。音大生や、地域ボランティアの協力の他、中高生の職業体験を受け入れています。町内会と災害発生時における相互援助協力協定の覚書を締結しました。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校にベルマークやペットボトルキャップ回収事業に協力している。	/	/
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営促進会議で話し合われたことは、ご家族に知らせると共に、日々のケアサービスの向上に活かすようにしている。	今年度運営推進会議を三回開催しています。ここでの提案、助言からボランティアとコンタクトでき協力をお願いすることにつながりました。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	神奈川区グループホーム連絡会で実情を話し合い、区高齢者支援・保護課との話し合いの中で情報をいただける体制づくりを伝えている。	区の高齢者支援保護課とは常に連絡を取り情報交換を行っています。市内四つの区が合同開催しているグループホーム協議会に参加しています。地域包括支援センターとは、演劇出演や作品の展示会などの協力を得ています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を一例ずつ話し合っている。ドアの施錠については、行わなければならない事もあり、これからの課題とする。	職員には、身体拘束廃止に向けて9月のフロアー会議で研修し周知徹底を図っています。現在は、安全など理由から日中でもユニットおよび玄関は施錠しています、これを将来は施錠しなくても済むように検討をしています。	玄関と各フロアーの出入り口の施錠は、日中施錠をしない方法で介護支援が出来る工夫を検討し、実践につなげることを期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したスタッフがフロア会議で伝え、研修を共有し学びスタッフ全員で虐待について考えたり話合ったりしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加できるように体制づくりをしていく。折に触れ又フロア会議でも学んだり話し合ったりしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結のときに、理解納得を得られるように説明している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された時や家族会で意見要望を伺い日頃のケアに反映させるようにしている。	家族会や運営推進会議、面会時に家族などからの意見を伺っています。職員の職場定着率を良くするための方策として待遇改善の話から、年次有給休暇制度を作成実施するなど職員の待遇改善を図り、定着率が向上してきています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議（月1回）で職員の意見交換の場を持ち、個別でも提案を聞くように努めている。機会を増やしたい。	施設長および管理者は日常の職員との会話やフロア会議などから運営に関する意見や提案を積極的に聴いています。一方、職員は会社提案の労働環境の改善や、勤務体制の変更などを検討論議し有給休暇や、給与などの処遇改善につなげています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業条件などの提案をして職員の意見を聞き整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修を受ける機会を確保するように努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修等を通じて職員が各新しいネットワーク作りを進めることを実践している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の話を聴き本人の問題を軽減できるように安心して入居できるようにしている。スタッフも本人ご安心し居心地良く過せるように声掛けし接している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族に話を伺っている。入居後もなるべく度々来所いただけるように声をかけ様子を伝えたり信頼関係づくりに努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族で話をする中でニーズを把握し受けられるサービスの情報を提出するよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の今までの生き方考え方を大切にし本人と活動できる場を考えている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族・ホームが一体となって本人のより良い生活を考えることを基本に本人を支えまた本人と家族の関係も良く維持できるように支援している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会ができることを入居前から話している。時には本人の部屋に宿泊することも可能であることを伝えている。	入居者が馴染の方と手紙の交換や、電話での話しの支援をしています。最近近くに住んでいた方が入居した関係から近隣の方々の訪問が多くなっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の利用者の表情に合わせて利用者同士が穏やかに心地よく過ごせるようにスタッフが配慮している。利用者同士が支えあう生活が来ている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後にもご家族の相談を受けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望・意見を聞いている。本人の希望実現のに向けて家族にも協力してもらい本人本位に検討している。	職員は、本人の基本情報やフェイスシートおよび家族からの話を聴いて希望や意見の把握に努めています。また、日常の動作やケアチェック表を用いて本人の意向や希望の確認に努力しています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族、それまでのケアマネジャー等関係者に話を聞いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りでスタッフ間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>月1回のフロア会議で意見を出しながらケアの方法を模索しつつ介護計画を作成している。</p>	<p>フェスシートや、スタッフその他施設内連絡綴り、実践記録評価表、ナースからヘルパーへの申し送りノートなどを活用してモニタリングを実施、月一回のフロア会議で検討介護計画を作成しています。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>記録に本人の言葉や行動を記入し情報を共有し毎日のケアに活かしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人のニーズに合った支援を行っている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事に参加する事で本人の力が発揮できるようにしている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診は本人・家族の希望を大切にしている。必要な情報を共有している。通院支援も行っている。</p>	<p>ホーム提携医は月二回の往診診療となっておりますが、入居者が従来からの馴染の医師に通院する場合の介添えは原則家族にお願いしています。ホームが家族に変わって通院介助する場合は所定の金額を頂くことを家族などに説明し了解を得ています。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の小さな変化「いつもと様子が何か違う」等も看護師に伝えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時に当ホームでの状況・情報を提供している。家族と連絡を取り合ったり病院職員と話合ったりしている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当ホームでの状況・情報を提供している。家族と連絡を取り合ったり病院職員と話合ったりしている。本人・家族の意向を伺いホームで出来ることの説明を行っている。	契約時に、「終末期の介護とは」のパンフレットを用いて家族などにホームでできることと、できないことを丁寧に説明しています。病院の医師の判断に従い可能な範囲で支援をしています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医が24時間対応のシステムを整えオンコール体制を取り入れている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域自治体と消防署の立会いで消防応援協力により覚書締結が出来た。	消防計画書を作成し、定期的に防災避難訓練を実施しています。町内会と災害時の相互協力支援の覚書締結ができました。災害時の飲料水、食料などの備蓄もしています。今期中にスプリンクラーを設置する予定になっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常会話や声掛けに対してスタッフには指導を行っている。特に排泄への声掛けには気をつけている。	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保について、プライバシー情報の利用方針利用目的を明確にし職員は、特にトイレや入浴の誘導にあたっての言葉かけでは、本人の誇りやプライバシーを損なわないよう細心の注意を払っています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いを伝えたり選択出来る様に働きかけている。本人が理解困難な場合は家族の理解を得るようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なホームの1日の流れがあるが体調に配慮して出来る限り本人の希望に添うように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お洒落やお化粧などお洒落を楽しめる外出を支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の咀嚼や嚥下状態に合った食事を提供すると共に食欲の出来る盛り付けを工夫している。	一ヶ月分のメニューを食材業者の管理栄養士が決めています。食材は毎日配達されています。入居者の希望に沿うような外食も随時取り入れています。調理、準備、後片付けをできる方には当番制で手伝って貰っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の記録を通して体調管理をしている。主治医と相談・指示に基づき食事内容や形態を工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの実施、本人に合わせた口腔ケアを支援している。夜間は義歯は入れ歯洗浄剤を利用し清潔に配慮している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表により排泄パターンを理解して本人に合った排泄に心掛けている。トイレで排泄できるよう支援している。	排泄のパターンの把握や、しぐさに注意することにより、トイレでの排泄を支援しています。声かけは他の人に気づかれないよう、合図するなど工夫をしています。便秘がちの人にはマッサージをしてあげています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により、排便の確認をしている。水分摂取・運動等本人に合った服薬コントロールを行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の準備を職員と一緒にしたり入浴が楽しい時間になるようリフレッシュ出来る様に考慮している。	入浴は週に二度が基本ですが、希望により毎日の人や一日おきの人もいます。入浴を嫌がる人には、家族に手伝ってもらふことや、同性のスタッフが一緒に入るなどして支援しています。またドライブの前に入浴に誘うなどの工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネン交換にも気を配っている。日中活動し夜は睡眠という生活リズムを整えるようにしている。体調に合わせてホットミルク提供も行う。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師・医者と連携し特に薬種の変更があった時は申し送り記録で伝達している。個人別薬表・袋に日付・時節の記入で誤薬の無いよう努めている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力・希望に合わせ掃除・洗濯物たたみ・食器の洗浄拭き物等を職員と一緒にしている。役割をなるべく持ってもらい感謝の気持ちを伝えている。			
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・外気浴・特別外出等体調に合わせて実施している。	天気の良い日は2～4人が一組になって散歩に出かけます、ホームの周りは閑静な住宅地なので、庭が美しく、木々や花を觀賞しながら、歩きます。また、スーパーに買い物に出掛けています。時にはドライブでみなとみらいや、三沢公園に行きます。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては施設事務所にて管理しているが必要に応じて買い物の行き自分で支払をしている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて、葉書や電話を家族の希望にも合わせて支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・トイレ・風呂場で安全安楽に座位・立位が出来るように手摺滑り止めになっている。フロアや廊下には利用者の作品ご季節ごとに飾られている。	古新聞や空き箱などを利用した、利用者による手製の切り絵が、リビングなどの壁をキャンパスにして飾られています。またホームの脇に利用者によって整地された畑があり、いんげん、きゅうり、トマトなどの野菜が栽培されています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで気の合う利用者同士でゲームを楽しむ、談笑したり、ソファに腰掛テレビを見る。得意の裁縫をする人・季節に合った絵工作をする人など思い思いに過ごしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたタンスやスタンド写真（若い頃）を飾ったり個性に合わせた使い方をしている。	居室は明るくよく整頓されています。また使い慣れたスタンドや鏡台など、それに古風な桐の箆笥が置かれている部屋もあります。若い時の家族や友人と一緒に写真、手製の切り絵などが飾られています。仏壇を置いている人も数人います。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身の状態を考慮して部屋を決めたりドアの表示を理解出来る様に工夫して一人で行くことが出来る様にしている。		

事業所名	グループホーム よこはま
ユニット名	せせらぎ

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し日々その理念をベースにケア出来る様に取り組んでる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や町内会の一員としてイベントに参加出来る様にしている。今年は地域と消防協力隊の覚書調印もでき、三ツ沢小学校運動会にも参加した。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校にベルマークやペットボトルキャップ回収事業に協力している。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営促進会議で話し合われたことは、ご家族に知らせると共に、日々のケアサービスの向上に活かすようにしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	神奈川区グループホーム連絡会で実情を話し合い、区高齢者支援・保護課との話し合いの中で情報をいただける体制づくりを伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の具体的な行為を一例ずつ話し合っている。ドアの施錠については、行わなければならない事もあり、これからの課題とする。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加したスタッフがフロア会議で伝え、研修を共有し学びスタッフ全員で虐待について考えたり話合ったりしている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加できるように体制づくりをしていく。折に触れ又フロア会議でも学んだり話し合ったりしている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約締結のときに、理解納得を得られるように説明している。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が来所された時や家族会で意見要望を伺い日頃のケアに反映させるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議（月1回）で職員の意見交換の場を持ち、個別でも提案を聞くように努めている。機会を増やしたい。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業条件などの提案をして職員の意見を聞き整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修を受ける機会を確保するように努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修等を通じて職員が各新しいネットワーク作りを進めることを実践している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の話を聴き本人の問題を軽減できるように安心して入居できるようにしている。スタッフも本人ご安心し居心地良く過せるように声掛けし接している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族に話を伺っている。入居後もなるべく度々来所いただけるように声をかけ様子を伝えたり信頼関係づくりに努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族で話をする中でニーズを把握し受けられるサービスの情報を提出するよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の今までの生き方考え方を大切にし本人と活動できる場を考えている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族・ホームが一体となって本人のより良い生活を考えることを基本に本人を支えまた本人と家族の関係も良く維持できるように支援している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会ができることを入居前から話している。時には本人の部屋に宿泊することも可能であることを伝えていく。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の利用者の表情に合わせて利用者同士が穏やかに心地よく過ごせるようにスタッフが配慮している。利用者同士が支えあう生活が来ている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後にもご家族の相談を受けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望・意見を聞いている。本人の希望実現の向けて家族にも協力してもらい本人本位に検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族、それまでのケアマネジャー等関係者に話を聞いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りでスタッフ間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>月1回のフロア会議で意見を出しながらケアの方法を模索しつつ介護計画を作成している。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>記録に本人の言葉や行動を記入し情報を共有し毎日のケアに活かしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人のニーズに合った支援を行っている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事に参加する事で本人の力が発揮できるようにしている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診は本人・家族の希望を大切にしている。必要な情報を共有している。通院支援も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の小さな変化「いつもと様子が何か違う」等も看護師に伝えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時に当ホームでの状況・情報を提供している。家族と連絡を取り合ったり病院職員と話し合ったりしている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当ホームでの状況・情報を提供している。家族と連絡を取り合ったり病院職員と話し合ったりしている。本人・家族の意向を伺いホームで出来ることの説明を行っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医が24時間対応のシステムを整えオンコール体制を取り入れている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域自治体と消防署の立会いで消防応援協力により覚書締結が出来た。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常会話や声掛けに対してスタッフには指導を行っている。特に排泄への声掛けには気をつけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いを伝えたり選択出来る様に働きかけている。本人が理解困難な場合は家族の理解を得るようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なホームの1日の流れがあるが体調に配慮して出来る限り本人の希望に添うように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お洒落やお化粧などお洒落を楽しめる外出を支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の咀嚼や嚥下状態に合った食事を提供すると共に食欲の出来る盛り付けを工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事・水分の記録を通して体調管理をしている。主治医と相談・指示に基づき食事内容や形態を工夫している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の歯磨きの実施、本人に合わせた口腔ケアを支援している。夜間は義歯は入れ歯洗浄剤を利用し清潔に配慮している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表により排泄パターンを理解して本人に合った排泄に心掛けている。トイレで排泄できるよう支援している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェック表により、排便の確認をしている。水分摂取・運動等本人に合った服薬コントロールを行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴の準備を職員と一緒にしたり入浴が楽しい時間になるようリフレッシュ出来る様に考慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネン交換にも気を配っている。日中活動し夜は睡眠という生活リズムを整えるようにしている。体調に合わせてホットミルク提供も行う。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師・医者と連携し特に薬種の変更があった時は申し送り記録で伝達している。個人別薬表・袋に日付・時節の記入で誤薬の無いよう努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力・希望に合わせ掃除・洗濯物たたみ・食器の洗浄拭き物等を職員と一緒にしている。役割をなるべく持ってもらい感謝の気持ちを伝えている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・外気浴・特別外出等体調に合わせて実施している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては施設事務所にて管理しているが必要に応じて買い物の行き自分で支払をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて、葉書や電話を家族の希望にも合わせて支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・トイレ・風呂場で安全安楽に座位・立位が出来るように手摺滑り止めになっている。フロアや廊下には利用者の作品ご季節ごとに飾られている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで気の合う利用者同士でゲームを楽しむ、談笑したり、ソファに腰掛テレビを見る。得意の裁縫をする人・季節に合った絵工作をする人など思い思いに過ごしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたタンスやスタンド写真（若い頃）を飾ったり個性に合わせた使い方をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身の状態を考慮して部屋を決めたりドアの表示を理解出来る様に工夫して一人で行くことが出来る様にしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		夜間想定火災避難訓練の実施について、火災の発生があった時、夜勤者一人での行動は非常に限られた範囲でしか出来ない、火災警報が鳴っても建物の外には聞き取りにくい、近所に協力を求めるにも時間がかかる。いかに速やかな行動が取れるかが問題です。	火災は夜間に起きる、訓練はスタッフ全員が経験しないと頭での理解と実際の行動と違う事になるので、何回かの訓練を繰り返すことが咄嗟に行動に出るようになって行かなければならない。又、避難しやすいような環境作りをして行きたい。	色々な場所で火災が発生する事を想定して訓練を続けて行きたい。	10ヶ月
2		運営推進会議開催について、2ヶ月に1度の開催については、何かと出席者にご足労を掛けることになっていますが、年間計画の提案を持って参加を呼びかけてゆきたい。	年間計画の作成でご家族、町内会、地域包括センター、提案したい。	今までせっかく会議をするのに皆さんの出席を願っているのだから内容を濃いものになりたいと思っていましたが、議題提案を少なくし時間も少なくして気軽に開催できるようにしたいと思っています。	2ヶ月
3		利用者の入院、退院退去などで空き室がある場合、短期利用共同生活介護に提供してゆくことをしてゆきたい。	入居の効率を上げスタッフの給与に反映してゆきたい。	運営規定の追加条項をして短期の利用者の受け入れを進めて行きます。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のを記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。